

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401822
法人名	社会福祉法人 楽々会
事業所名	グループホーム 楽苑
所在地	〒859-1402 長崎県島原市有明町湯江乙1138 (電話) 0957-68-0318

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年 3月 13日	評価確定日	平成20年 4月25日

【情報提供票より】(H20年1月15日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	16人	常勤10人, 非常勤6人, 常勤換算	3.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱費3,000円+実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		900 円		

(4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	7名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	2名		
年齢	平均 84.6歳	最低	74歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くすのきクリニック・貴田神経内科病院・スマイル歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの周辺は畑に囲まれ、またフラワー公園も近く、緑豊かなところに建てられている。建物は木の温もりを大切にしたいという代表者の思いが込められており、イスやテーブル等、家具はチーク材で出来ている。その意図が入居者やご家族に伝わり、大変喜ばれており、当ホームに遊びに来られた際には、ゆっくり寛いでいかれることもある。また、窓ガラスはペアガラスを用いられていることで、冬は暖かく夏は涼しくなるため、床暖房や冷房機を可動せすとも快適であるため、エコロジーにも配慮されている。天気によっては中庭にある東屋で季節の花々を楽しめる。また全フロアは清潔に保たれているため気持ち良く、職員教育の一環にホテルにいるコンシェルジュの対応を学ばれている。これは入居者がストレスを感じないように言葉遣いや対応を考えられたもので、入居者の明るく楽しそうな姿を拝見することで、良い効果を発揮していることが伺える。又、調査当日には、自分の居室に私たちを招き入れて下さり、お茶をごちそうになる等、和ませて頂いた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点に関しては改善計画シートを用いられ、改善可能な部分から全職員で取り組まれている。主な改善点は申し送りの確認方法で、職員に必ず、サインをしてもらうことで業務連絡の確認に努められている。また事故報告書の活用などは、ヒヤリハットなどで未然に防げた事例を検討することで学びを深められ、今後に繋がられている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員一人ひとりが記入し、主任がまとめたものを管理者が確認するなど、全員で取り組まれている。また自己評価を行うことで自らの仕事の内容を再確認され、見直しや気づきを得ることで意識の向上を図られている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は家族会の代表・市町村の代表・老人会会長・ホーム代表が参加し、2ヶ月に1度開催されている。入居者の生活状況、入居者の普段の食事を試食してもらうなどで交流されながら取り組まれている。また今後はご意見をさらに引き出す取り組みを考えられており、記録方法も充実されるべく検討中との事である。また地域の消防団にも当ホームの安全面を伝えられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	暮らしづくりは年2回ほど当ホームの総合的便りを作成されたり、入居者個々の行事の写真と職員の手紙を請求書と一緒に送られる事で報告されている。また必ず連絡することは連絡簿を用意され、伝えたらサインすることで確実に伝える工夫がなされている。意見に関しては相談の窓口を書類に記載され、また面会時にも尋ねられ、意見を伺った際は報告書を用意し、全職員で検討し取り組まれた後、ご家族に説明されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	当ホームの周りは畑が多いため、地域の方が野菜などを下さるので御礼でお菓子を差し上げたり、子供110番の避難所になることで地域との連携が自然と結ばれている。また中学生の体験学習を通して子供とのふれ合いを喜ばれている。自治会の行事等には積極的に参加され、職員も踊りなどの出し物をする事で喜ばれている。また管理者が体操の先生でもあるため、その技能を活かして、地域の方に健康体操を通してふれ合いの機会をつくられている。他にはアロマオイルのフットマッサージなどを通して、地域と切れない関係作りの工夫がなされている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「楽苑は楽しい苑(ところ) 楽しくなければ楽苑じゃない」であり、当ホームを通して入居者やご家族、地域の方や職員に到るまで楽しく、また居心地よく暮らせることを目指された理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所などの目に付くところに理念の掲示をされ、常に笑顔を念頭に置いた対応を心がけられている。また問題が起こった際にはどうしたら楽しく過ごせるのかを職員間で考え、工夫されるなど、日々理念の実践に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事等には積極的に参加され、職員も踊りなどの出し物をするなどで喜ばれている。また当ホームの管理者が体操の先生でもあるため、その技能を活かして地域の方に健康体操を通してふれ合いの機会をつくられている。また当ホームは水害時に地域の避難場所として提供される予定になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員一人ひとりが記入し、全員で取り組まれている。また自己評価を行うことで自らの仕事の内容を再確認され、見直しや気づきを得ることで意識の向上を図られている。前回の改善点に関しては改善計画シートを作成され、改善可能な部分から全職員で取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族会の代表・市町村の代表・老人会会長・ホーム代表が参加し、2ヶ月に1度開催されている。入居者の生活状況、入居者の普段の食事を試食してもらうなど、交流されながら取り組まれている。また記録方法も充実されるべく検討中との事である。		

グループホーム 楽苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは健康福祉祭りや当ホーム独自の取り組みである体操を、公共施設を活用されることで顔を合わせる機会があり、顔馴染みの関係を作られることで共にサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	基本的に金銭は預からないため立て替えになり、その内容は出納帳で確認できるようになっている。また暮らしぶりは年2回ほど、当ホームの総合的便りを作成されたり、入居者個々の行事の写真と職員の手紙を請求書と一緒に送られる事で報告されている。また必ず連絡することは連絡簿を用意され、伝えたらサインすることで確実に伝える工夫がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見に関しては相談の窓口を書類に記載されている。また面会時にも尋ねられ、ご家族も要望があった際には遠慮無く伝えられている。意見を伺った際は報告書を用意し、全職員で検討し取組まれた後、ご家族に説明されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は開設以来ほとんどない。運営者は職員が入居者と会話のきっかけになる事を考えて服装の制限をせず、また状況によっては臨機応変に着替えてもらうようにスカート代として手当てを出すなどの工夫がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ、必要と判断された際には復命書により研修会への参加を促されている。また記録も取られており、内部研修で報告会をされる時には、研修の内容やそれについての意見・感想を積極的に述べられている。特に言葉遣いや表現方法(コンシェルジュ)に対する取り組みがなされ、お芝居を通して楽しく学び、時には発表会で演じるなどの工夫がされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修会で知り合えた同業者と交流を持たれ、意見交換などでサービスの質の向上に取り組まれている。また職員間でも交流を結ばれ、相手のホームを訪れることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>当ホームの敷地内に同法人の他の施設があり、そこを利用されている方が当ホームへ入居される事があるため、馴染みの関係になりやすい。また本人の自宅訪問もされることで、その方の生活歴や生活のリズムなどの把握に努めると同時に、先輩入居者の心使いで馴染み易い環境が確立している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が正月に着物を着る際に着付けを習ったり、肌の手入れや化粧の方法なども教えて頂くなど、入居者に感謝を表しながら共に支え合う関係を築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の生活歴や趣味などは見易い書式で記録されている。また髪型や白髪染めなどの希望が新たに把握された内容は申し送りノートを活用されることで、職員全員が共有されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族の意向や同意が書類からは確認出来なかったが、入居者の希望や職員の気づきを通し、また生活歴を活用することで具体的な介護計画を作成されている。</p>		<p>さらに今後は、家族の意見を尋ね、介護計画に対する同意のサインや日付の記録を深められる事で、介護計画の質の向上に取り組まれることに期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の日誌に気づきが記録されたものを基に、介護計画を3ヶ月に1度見直されている。その都度アセスメントも見直されている。しかし、期間の詳細な記述がなく、アセスメントと計画の連動が十分とはいえない。</p>		<p>さらに今後は、介護計画の期限を区切った形で、明確な期間設定をされることを通して、変化に伴う経過が理解できるモニタリングシートを工夫し、現状に即した介護計画に向けた取り組みを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者の親族が美容院をされており、3ヶ月に1度無料で利用でき、入居者に好評である。また日曜日には法人内の他の施設の大浴場を活用して、温泉気分を味わうことも出来る。管理者が体操の先生でもあるため、独自のリハビリ体操や呼吸法を通して身心の健康を促進されるなど、様々な支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関を大切に、かかりつけ医への受診支援がされている。またその際には受診記録を取られ、大事な事はアンダーライン等を活用することで全職員が把握できるよう工夫されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関して職員の勉強会をまだされていないが、終末期に関して本人やご家族との話し合いによってどう過ごされたいのかという希望を尋ね、退所を望まれる場合には退所先もお世話されている。また書面も用意され、同意も得ている。		重度化に伴う看取りに関して、職員・入居者とその家族の位置関係は重要であり、職員のケアに向け、心身面での係りを含めた勉強会を実施し、全員が同じ方向で係わりを持つ事が期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などは事務所に保管され、日誌などは人目に触れない工夫がされている。また朝の申し送りに関しても本人の名前を出さず、イニシャルで表現するなどの取り組みがされている。また役場に入居者の活動写真を飾った際にもご家族の同意を得ており、あえて写真もはっきり個々の顔を認識しづらいように工夫されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が職員にコーヒーやお茶を振る舞って下さる時にはお話しをしながら過ごされている。また買い物をしたいという希望がある時は、買い物へ出かけ、帰りにファミリーレストランへよるなど、希望にそって支援されている。		

グループホーム 楽苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理などは入居者の状態に応じて手伝って頂いている。味付けや料理の見た目も注意され、器や料理の色合いも楽しめる。また糖尿病の方がおられるため、透析の調理をだされている。また饅頭作りで入居者の残存能力を活かし、楽しい雰囲気を出されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当ホームでは日曜日以外はほぼ毎日入浴が楽しめるようになっている。また基本的に入浴はお昼にあるが、一番風呂や朝風呂を希望される方には状況に応じて対応されている。脱衣場には暖房器があり、浴室は広くて清潔感がある。また入浴後は爪切りや耳掃除なども行われ、入浴を楽しむ支援がされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	包丁を研ぐ方や花が好きの方はブレンダーを用意されている。また洗濯物を畳まれたり部屋の掃除は各自で行ってもらっている。また入居者全員、オセロや大きなトランプで楽しそうにされていた。他にも劇や切り絵、体操などを通して支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ファミリーレストランでの食事や買い物、近くの公園で花見等を通して外出されている。また中庭で日光浴も出来るなど、ホーム内に閉じこもらない工夫がされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のセンサーを利用してさり気ない見守りや、時には同行することで鍵を掛けないケアの実践に取り組まれている。また職員は唯一センサーが無いドアを利用することで、センサーが反応した際には入居者かお客さんの出入りと分かる。また地域の方も見守ってくださり、当ホームへ連絡を下されることがある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	風水害の訓練は今はまだ経験がない。しかし火災の避難訓練を徹底されており、夜を想定された避難訓練も記録もされている。設備においては昨年スプリンクラーを導入され、また自家発電の設備も用意されている。また避難の際、連絡網を用意されている。		さらに今後は風水害や地震の災害も想定され、備蓄や重要持ち出し品など、ライフラインの確保を検討されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析の方の食事は病院の指示によって作られている。また代替えとして炊いた物などで栄養バランスを考えられている。食事量・水分摂取量・体重などの記録を取り、一人ひとりに応じた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には山茶花の花などが植えてある。また入居者が自宅から持ってこられた万作の木も裏庭に植えてある。建物内は綺麗に掃除され、匂いに関しては換気とお香を活用されている。また木の温もりを大切にされているので、中庭を囲む廊下にはチーク材のイスが用意され、全員の様子が分かりながら一人になれる居場所を確保されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはその人らしい暮らしぶりがよく分かる持ち込みがされている。筆筒や仏壇、家族の写真やポットに冷蔵庫と、様々なものが持ち込まれている。		